

施策の目的（目指すべき理想の姿）
 村民の理解と協力のもと、公共の福祉を優先させ、自然環境の保全を図りつつ、地域の自然的・社会的・経済的および文化的条件に配慮して、健康で文化的な生活環境の確保と均衡ある発展を図る。

施策の現状
 用途別で見ると、農業振興地域では中山間地域の農地の荒廃や遊休化が進行、耕地面積は減少し続けている。工業地域は、伴野新田地区を中心にインフラ整備を進め、企業の誘致を積極的に行っている。また、河野新田地区では天竜川架橋を主眼においた工業用地の開発を計画している。住宅地域では、竜東一貫道路による利便性の向上から、特に下段地域での宅地化が進む一方で、中山間地域の人口の減少・高齢化への対応が喫緊の課題となっている。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|----------------------------|----|------|------|-----|----|
| 他の施策と併せ、用途別、地域別に土地の有効活用を図る | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|--|---------------|
| 施策の課題・問題点 住宅地域・商業地域・工業地域では、今後着工されるリニア中央新幹線の影響を強く受けると考えられるため動向を注視していく必要がある。自然景観地域の推進については、広域行政での連携が重要となると考えられる。農業振興地域を取り巻く課題としては、農家数の減少・就農者の高齢化・後継者不足が深刻となっており、優良農地の保全及び遊休・荒廃農地の有効利用が課題となる。 | 今後の方向性 |
| 今後の方針、対策、進め方 地域の活性化と住民福祉の向上を目指し、計画的かつ合理的な土地利用が課題となる。そのためにも、用途別・地域別の実態を把握し、地域毎の特性とバランス、簡易動向を考慮しながら県や近隣町村と共同し、適正な土地利用への誘導・規制を図っていく。 | B |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事務事業評価 | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|
| 事業名 | 担当課 評価項目 | | | | | | | | | | 判断理由 |
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | 総合評価 | |
| 事業費(人件費は除く) | | | | | | | | | | | |
| 他の事務事業との関連からこの施策における事務事業はなし | | | | | | | | | | | |
| 十円 | | | | | | | | | | | 選択 |
| 千円 | | | | | | | | | | | 選択 |
| 千円 | | | | | | | | | | | 選択 |
| 千円 | | | | | | | | | | | 選択 |
| 千円 | | | | | | | | | | | 選択 |
| 千円 | | | | | | | | | | | 選択 |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|-----------------|----------------------|------------|-----------|
| 施策 2 | 住民自らの地域づくりの推進 | 主管課 | 総務課 企画財政係 |
|-----------------|----------------------|------------|-----------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）

村民一人ひとりが村づくりの担い手として、主体的に地域づくりに参加し、村民と行政が連携して住みよい村を築いていける社会を構築する。また、地方分権の推進は住民自治の拡充を目指すもので、地域づくりへの参加を促すための情報提供の充実を図るとともに、施策形成過程等に住民参加機会の拡充を図る。

施策の現状

政策形成過程への村民参加機会として村づくりふれあい集会有るが、参加者が区の役員中心に限定傾向にあり内容に工夫が必要。平成21年度に自らつくる地域づくりを目的として、各区において「地区計画」が策定されたが、その取り組みに地区によって温度差がある。（山間地区では積極的な取り組みがなされているが下段地区では山間部ほどの盛り上がりが見られない）

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|------------------------|----|------|------|-----|--------|
| 村民参加機会の参加者(村づくりふれあい集会) | 人 | 220 | 285 | 500 | 成人の10% |
| 自らつくる地域づくり事業の申請件数 | 件 | 11 | 18 | 20 | |
| | | | | | |
| | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

施策の課題・問題点

村づくりふれあい集会有結果として、年代的に幅広く意見を吸い上げる場に現状がなっていないことから、開催方法の見直しが必要。
「地区計画」実現に向けた取り組みに対する地区の温度差の克服が必要。

**今後の
方向性**

今後の方針、対策、進め方

村づくりふれあい集会有については抜本的にやり方を改め、①区の総会や区主催の会議にあわせ意見交換する場を設定する。②自治会単位に村長と懇談する会を開催する。③女性や高齢者など対象者を限定した集会有は関係団体と協議して計画するという3方式とする。
「地区計画」の実現に向けて、地区役員と地区支援員を中心に先進地区の事例を研究し、意見交換する場を設定するなどして一層の推進を図る。

A

〔今後の方向性の判定基準〕 A…向上 B…維持 C…減少

事務事業評価

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 総合評価 | 判断理由 | |
|--------------------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------------------------------------|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | | |
| 事業費(人件費は除く) | | | | | | | | | | | | |
| 村づくりふれあい集会 千円 | A | B | B | A | A | B | B | A | B | B | A | 開催方法の見直しにより発展性が期待できる。 |
| 自らつくる地域づくり事業 2,101 千円 | A | A | B | A | A | A | A | A | A | A | A | 地区によって取り組み方に温度差があるがその克服が課題となる。 |
| とよおかまつり 3,321 千円 | A | A | B | A | A | A | A | A | A | A | A | 昨年度より実行委員主体のまつりにシフトしてその効果が徐々につつある。 |
| 広報誌の発行 4,293 千円 | A | A | B | A | A | A | A | B | A | A | A | 村民への情報提供が紙面で伝わることから、確実かつ有効な方法である。 |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | | |

〔総合評価・理事者評価の判定基準〕 A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|-----------------|--------------------|------------|-------|
| 施策 3 | 男女共同参画社会の推進 | 主管課 | 教育委員会 |
|-----------------|--------------------|------------|-------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）
 家庭・地域・職場・学校などで、男女の性別による役割分担意識に基づく社会システムや価値観を見直し、お互いに対等なパートナーとして認め合い、一人ひとりが活力ある地域づくりに参画できる男女共同参画社会の構築に向け、啓発活動の推進を図る。

政策の現状
 家事や育児については、共働きの家庭が増えたためか夫婦が協力し合って役割分担ができてきているように感じる。また学校でも男女に関係なく個性や能力を伸ばす取り組みが成されている。しかし地域では、圧倒的に男性役員が多く、女性の積極的な参加を望む声もあるが、なかなか難しい。「男だから」「女だから」という概念にとらわれず、老若男女が活力ある地域づくりのために参画しやすい社会になるよう啓発活動を行っている。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|-------------------------------|----|------|------|-----|----|
| 男女共同参画週間におけるCATVを利用したCM放送 | | | | | |
| 男女共同参画啓発パンフレットの全戸配布 | | | | | |
| 「活力ある地域づくり」をテーマにしたさんかくセミナーの開催 | 人 | | 20 | 50 | |
| | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|--|---------------|
| 施策の課題・問題点 この数年は「男性も女性も一緒になって地域づくり」に重点を置いて進めている。地域での女性や若者の参画がなかなか難しく、地域行事や地域づくりに参画しやすい社会をつくるために、村民に理解や協力を得ていく必要がある。 | 今後の方向性 |
| 今後の方針、対策、進め方 男女共同参画週間には、基礎的な知識をわかりやすく説明するCMを作成し放送する。 さんかくセミナーを開催し、みんなで協力しての地域づくりを考えていきたい。 | B |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 総合評価 | 判断理由 |
|--------------------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|---|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | |
| 啓発パンフレット(改訂版)作成 133千円 | A | B | B | B | A | B | B | B | B | B | 16年に作成した参画プランの見直しをし、改訂版を配布することで改めて共同参画について認識を深めるため必要である。 |
| さんかくセミナー運営補助金 20千円 | A | B | B | B | A | B | C | B | B | B | パンフレット配布直後の開催だったが、参加者が少なく関心の薄さを感じられた。共同参画推進のために地道な活動が大切である。 |
| セミナー講師謝礼 30千円 | A | B | B | A | A | A | B | B | B | B | 地域づくりについて悩んでいる方には、是非参加してもらいたい講義である。 |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|-----------------|--------------------------|------------|---------|
| 施策 4 | 高齢者・障害者が活躍する社会の形成 | 主管課 | 住民課 福祉係 |
|-----------------|--------------------------|------------|---------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）
 高齢者が活躍する社会づくりと障害者の社会参加と地域での生活の促進

施策の現状
 高齢者クラブの組織率は年々低くなってきている。シルバー人材センター補助金も減少傾向にはあるが、高齢者の生きがい対策としては有効な事業であり、村内の利用や要望も多い。敬老会事業については、参加者が減少傾向にあり、また実施方法について検討すべきである。グループホーム運営費補助については村内施設に19年度まで5年間補助してきたが、現在は県単補助制度に基づき、村外の重度障害者受入施設に対し補助している。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|----------------|----|------|------|------|----|
| 高齢者クラブの活動助成 | 人 | 862 | 848 | 1000 | |
| シルバー人材センターへの補助 | 人 | 58 | 55 | 70 | |
| 敬老事業 | 人 | 230 | 210 | 300 | |
| グループホーム運営補助 | 箇所 | 1 | 1 | 1 | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| 施策の課題・問題点 | 今後の方向性 |
|---|--------|
| <p>高齢者クラブの活動は、役員の担い手不足の傾向にあり、地区によって活動内容にバラツキがみられる。敬老会については、地区単位で実施している敬老会が好評であることなどから、地区での実施に移行を検討すべきである。</p> | B |
| <p>今後の方針、対策、進め方 高齢者クラブの活動は、高齢者の介護予防や引きこもり防止対策としての意味合いもあるため継続しての実施が必要である。シルバー人材センター事業は、高齢者の生きがい対策や農作業などの担い手として需要も多いため今後も継続する。敬老会については参加者の減少傾向を考慮すると、地区ごとの実施が望ましいが、地区によって事情が異なる現状もあり、実施方法を慎重に検討する必要がある。</p> | |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 |
|---------------------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----------------------------------|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | |
| 高齢者クラブ活動助成 908千円 | A | B | A | B | B | A | B | B | B | 高齢者の介護予防や引きこもり防止対策として、継続しての実施は必要 |
| シルバー人材センター運営負担 1,149千円 | A | A | B | B | B | A | A | B | B | 高齢者の生きがい対策として、継続しての実施が必要 |
| 敬老事業 1,249千円 | A | A | B | C | B | A | B | B | C | 実施方法を検討しながら継続して実施 |
| グループホーム運営補助 363千円 | A | C | A | B | C | A | A | B | B | 県の補助制度継続中は今後も実施 |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|-----------------|------------------------|------------|---------|
| 施策 5 | ボランティア・NPO活動の振興 | 主管課 | 住民課 福祉係 |
|-----------------|------------------------|------------|---------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）
 地域で援助が必要な方への「思いやり」や「助け合い」が自然発生的にできる豊かな地域社会の構築と、そうした社会奉仕活動のできる人材の育成

施策の現状
 以前に組織的には立ち上げが行なわれていたが、充実したボランティア活動を推進するため、平成22年度にボランティアセンターと活動員を配置した。ボランティアセンターやボランティアの会を中心に、南相馬市の避難住民の支援活動に取り組んでいた経過があり、センターの設置が今回の対応に機能した。福祉タクシー制度を補完するために、送迎ボランティアサービスも今年度より開始されている。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|----------------|----|------|------|-----|----|
| ボランティアセンター設置 | 箇所 | 0 | 1 | 1 | |
| コーディネーター等の人材育成 | 人 | 0 | 0 | 1 | |
| | | | | | |
| | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|--|---------------|
| 施策の課題・問題点 ボランティアセンターの立ち上げはできたが、多くのニーズに対応する活動に現状においては至っていない。 | 今後の方向性 |
| 今後の方針、対策、進め方 今後の活動の充実を図るため、ボランティアニーズの掘り起こしや援助を提供する皆さんの組織化など更なる対策が必要である。団塊の世代で定年退職をされた方の活力などを活用するとともに、活動員のボランティアコーディネーターへの移行などの人材の育成も検討しなければならない。 | A |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | | 判断理由 | |
|---|---------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|--------------------|--|
| | 妥当性 | 目的 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | 総合評価 | | |
| 事業費(人件費は除く) | | | | | | | | | | | | |
| ボランティアセンター設置 コーディネーターの育成・配置 2,479千円 | A | A | B | A | A | A | B | A | A | A | 更なる活動の充実を図る必要性が高い。 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | | |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|----------------|--------------------|------------|-------|
| 施策 6 | 国際性豊かな地域づくり | 主管課 | 教育委員会 |
|----------------|--------------------|------------|-------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）
 ○多くの村民が国際感覚を身につけ、異なる文化・習慣・価値観等を互いに理解・尊重しあえる人づくりと地域づくり
 ○日本人・外国人を問わず、誰もが暮らしやすい環境づくり

施策の現状
 小中学校へのALT配置により、児童期から外国語(英語)に触れるとともに、文化・習慣などを学ぶことができています。が、一般住民についてはほとんど機会がなく、現在数多く村内に居住している外国人との交流を行う場の創出が必要である。また、行政情報などはどうしても日本人住民向けに重点が置かれやすく、外国人住民にとって住みよい環境づくりはまだ十分とはいえない状況にある。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|----------------------|----|------|------|-----|------|
| 外国語指導助手(ALT)の配置【中学校】 | 人 | 1 | 1 | 1 | |
| 〃 【小学校】 | 人 | 1 | 1 | 1 | 2夜兼務 |
| 国際交流事業の開催 | 回 | 0 | 0 | 1 | |
| | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|--|---------------|
| 施策の課題・問題点 | 今後の方向性 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・一般村民と外国人村民との日常的な交流の場の不足 ・村民にとって必要不可欠な生活情報の多言語による発信や、災害時の緊急情報などの伝達方法を充実・確立する必要がある。 | A |
| 今後の方針、対策、進め方 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・村全体に国際化や多文化共生の意識を根付かせる事業を行うと同時に、誰もが安心して暮らせる村づくりのため、外国人住民との意見交換会やアンケート実施等によりニーズを把握して情報発信や相談体制整備を行う。そのためには、英語圏ALTはもとより、世界多地域出身の外国人村民にも協力してもらい進めていく。 | |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 総合評価 | 判断理由 |
|--|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|------|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | |
| 事業費(人件費は除く) 外国語指導助手配置事業【小・中】 5,131千円 | A | A | B | C | C | B | B | B | B | 国際理解推進にとって一定の成果を上げていると思われるが、効率性・公共性の面から検討すべき点もあるため 選択 選択 選択 選択 | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|-----------------|----------------|------------|-------|
| 施策 7 | 人権教育の推進 | 主管課 | 教育委員会 |
|-----------------|----------------|------------|-------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）
 人権に対する国際的関心が高まっているにも関わらず、私たちの身の周りには依然として様々な人権問題が存在し、不当な差別に苦しんでいる人がある。全ての村民があらゆる人権問題を正しく理解し、お互いの人権を尊重しあえる社会を築いていくために、啓発や学習を推進する。

施策の現状
 公民館学習会では人権教育に関する講座を設け、様々な人権について認識を深めている。また、研修会には各社会教育団体に呼びかけをし、参加していただいている。また、公民館報で「社名運動」の記事の掲載で村民に啓発している。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|--------------------|----|------|------|-----|----|
| 公民館報での啓発活動 | | | | | |
| 公民館学習会での人権教育の講演会開催 | 人 | 130 | 130 | 170 | |
| 人権教育関係研修会への参加 | | | | | |
| | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|---|---------------|
| 施策の課題・問題点 | 今後の方向性 |
| 今現在では一定の村民が学習する機会はあるが、多くの村民が人権について正しい理解が得られるよう、行政が率先して啓発していく必要がある。また、学校の人権教育と連携をとり、豊丘村の子どもたちが差別のない明るい社会に暮らせるよう人権意識の高揚を図る。 | |
| 今後の方針、対策、進め方 | B |
| 公民館学習会での人権教育に会員以外の方の参加も呼びかける。また、学校とも更に連携をとっていく。 | |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事務事業評価 | | | | | | | | | | | |
|--------------|---------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---|------|
| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 | |
| | 妥当性 | 目的 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | 総合評価 |
| 事業費(人件費は除く) | | | | | | | | | | | |
| 学習会講師謝礼(3名分) | A | B | B | A | A | C | B | B | B | 学習会員は様々な講師から人権についてわかりやすく講義を受けている。今後も続けていく必要がある。 | |
| 75千円 | | | | | | | | | 選択 | | |
| 千円 | | | | | | | | | 選択 | | |
| 千円 | | | | | | | | | 選択 | | |
| 千円 | | | | | | | | | 選択 | | |
| 千円 | | | | | | | | | 選択 | | |
| 千円 | | | | | | | | | 選択 | | |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|-----------------|----------------|------------|-------|
| 施策 8 | 社会教育の充実 | 主管課 | 教育委員会 |
|-----------------|----------------|------------|-------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）
 村民一人ひとりが生涯にわたり、生き生きと豊かでうるおいのある生活が送れるよう、村民のニーズにあった学習機会を提供する。
 あらゆる機会を設け、村をあげての生活リズム改善運動が息の長い運動となるよう推進を図り、次代をになう子どもたちの健全な育成に努める。

施策の現状
 村民のニーズに応え、新たな講座・クラブの開設を行い公民館グループ活動は充実している。しかし高齢化のため休部の危機にあるグループもあるが生きがいを持って活動を続けている。
 生活リズム改善村民運動は、教育委員会が中心となり、住民課・保育所・小中学校でそれぞれの年齢にあった方法で取り組みがされており、定着した事業もある。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|---------------------|----|-------|-------|-----|----|
| 住民が必要とする講座や学級を開催する。 | 数 | | 5 | | |
| 公民館分館の活発な活動を推進する。 | % | | 100 | 100 | |
| 生活リズム改善村民運動の推進。 | % | 80 | 80 | 100 | |
| 図書館事業の充実。 | 人 | 14000 | 12000 | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|---|---------------|
| 施策の課題・問題点 豊丘村は公民館が社会教育の中心的な役割を果たしており、多種多様な事業も村民のニーズに応えるものであり、意欲を持って学習する村民にとって大変喜ばれている。また分館活動も活発で、各地域の活性化に十分貢献している。しかし青年層が活動する団体が少なく、対応が必要である。生活リズムは一般村民にも広くアピールしていく必要がある。 | 今後の方向性 |
| 今後の方針、対策、進め方 村民の誰もが気楽に立ち寄れる施設、生きがいや意欲を持って趣味や学習ができる場として、村民のニーズにできるだけ答えていく。 | A |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | | 判断理由 |
|---------------------------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|---------------------------------|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | 総合評価 | |
| 社会教育事業 事業費(人件費は除く) 1899千円 | A | B | B | B | A | A | B | B | B | B | 村民が多様な事業、行事に参加できるよう更なる発展が必要である。 |
| 公民館事業 4227千円 | A | A | B | B | A | A | A | A | A | A | 村民の生涯学習の場として、更なる発展が必要である。 |
| 分館活動助成金 4825千円 | A | B | B | B | A | A | A | B | B | B | 地域の活性化のため、分館活動は重要である。 |
| 図書館事業 20637千円 | A | A | B | B | A | A | B | A | A | A | 読書、学習は子どもの健全な育成のためにも重要である。 |
| 千円 | | | | | | | | | | | 選択 |
| 千円 | | | | | | | | | | | 選択 |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|-----------------|----------------|------------|-------|
| 施策 9 | 学校教育の充実 | 主管課 | 教育委員会 |
|-----------------|----------------|------------|-------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）

○学習の基礎・基盤を身につけるとともに、自ら学び考えることのできるたくましい人づくりをめざし、知育と心育のバランスのとれた教育に努める。
 ○郷土に愛着をもち、わが村の次世代を担う子どもたちの育成を図るため、村の自然・歴史・社会的条件等を教材として活用した教育に努める。
 ○「生活リズム改善村民運動」をよりいっそう推進し、学校・家庭はもとより、地域全体が連携して子どもたちの健やかな成長を図る。
 ○快適で安全な学習環境を提供するため、学校施設の計画的な整備・改修を行う。

施策の現状

H22年度において南小体育館改修を実施したことで、当面する学校関係施設整備はほぼ完了することができた。その他、H21年度の学校ICT環境整備によるPC・デジタルテレビ・電子黒板等導入や、必要に応じた改修改修など、ハード面での学びの環境づくりは段階的に進んでいる。
 一方で、主としてソフト面で、村の考える方針(事業)と保護者の要望が必ずしも合致しない部分も出てきている。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|--|----|------|------|-----|----|
| 学校教育の充実に係る施策はその成果を数値で表すことが困難であるものが多いため、たとえば ・新入学児童へのランドセル購入費補助による平等感の付与と保護者負担の軽減 ・誕生日図書贈呈を通じた、読書による豊かな心の醸成 ・総合学習及び社会見学等での村施設活用や史跡探訪による、郷土への興味・愛着の喚起 ・心の教室相談員、スクールカウンセラーの設置活用による、児童生徒の相談支援体制の充実 などに対する児童生徒・保護者・村民からの意見をこれらの事業の評価指標とする。 | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| 施策の課題・問題点 | 今後の方向性 |
|---|--------|
| 「子どもたちが楽しく・進んで通える学校づくり」を目指して各事業を実施しているが、保護者の要望は年々多様化しており、現在の村の施策では満たしきれないものもある。可能な限り要望も取り入れていきたいが、費用対効果や行政が行うべき範囲との均衡を取ることが難しい。 | A |
| 今後の方針、対策、進め方 | |
| 子どもたちの健やかな学び・育ちを第一に、ハード面・ソフト面の充実を図る。その際には、費用対効果や行政の行うべき範囲を勘案しつつ、アンケート等で保護者の要望も把握し可能な限り取り入れていくなどの連携方策をとる。 | |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 | |
|--------------------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|--|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | 総合評価 |
| 学校施設整備事業 227,342千円 | A | A | A | B | A | A | A | A | A | B | 当面する整備はほぼ終了しており、今後は費用対効果を精査しながら必要なものを実施していく。 |
| 就学援助事業 4,686千円 | A | A | A | B | B | A | B | B | B | B | |
| 学校教育活動充実事業 2,918千円 | A | B | B | B | B | B | B | B | B | B | 費用対効果を考えつつ、より教育活動が充実する方法・事業を実施していく。 |
| 児童生徒生活・相談支援事業 5,224千円 | A | A | B | C | B | B | B | B | B | B | |
| 千円 | | | | | | | | | | | 選択 |
| 千円 | | | | | | | | | | | 選択 |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|------------------|---------------|------------|-------|
| 施策 11 | スポーツ振興 | 主管課 | 教育委員会 |
|------------------|---------------|------------|-------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）

村民が健康・体力づくりなどそれぞれの目的に応じて、いつでもどこでも、スポーツ活動に親しめるように事業及び場所の提供をおこなう。
 体育施設については、多くの人がスポーツ活動を気軽に親しむことができるように、利用者が使いやすい管理運営をおこなう。
 また、村内の全小中学校の体育施設を、学校教育に支障のない範囲で社会体育の定期的な活動場所として村民に開放する。

施策の現状

平成22年度末にテニスコートの改修工事を行い、テニス愛好者、またテニス初心者等多くの方に利用してもらい、テニスを生涯スポーツの一つとして位置付けていきたい。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|----------------------------|----|-------|-------|-------|----|
| 村主催体育事業 延べ参加者数(分館・体協行事は除く) | 人 | 2525 | 2768 | 3500 | |
| 村内体育施設 利用者数(小中学校施設は除く) | 人 | 52174 | 52726 | 60000 | |
| | | | | | |
| | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|---|---------------|
| 施策の課題・問題点 | 今後の方向性 |
| 体育協会加盟団体の各スポーツクラブにおいて、クラブ員の減少が問題となっているクラブがある。 | |
| 今後の方針、対策、進め方 | A |
| 村民への回覧や有線放送により周知し、募集を行っていく。 | |

〔今後の方向性の判定基準〕 A…向上 B…維持 C…減少

事務事業評価

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 | |
|----------------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----------------------------|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | 総合評価 |
| 事業費(人件費は除く) | | | | | | | | | | | |
| 教育委員会体育イベント 580千円 | A | B | B | B | A | B | A | B | B | B | 村民のニーズにあったイベント展開をしていくべきである。 |
| 公民館体育イベント 95千円 | A | B | B | B | A | B | A | B | B | B | 村民のニーズにあったイベント展開をしていくべきである。 |
| 体育施設維持管理 11173千円 | A | A | A | B | A | A | A | B | B | B | 定期的な修繕により、維持している方法しかない。 |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |

〔総合評価・理事者評価の判定基準〕 A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|------------------|----------------------|------------|-------|
| 施策 12 | 文化財保護と地域文化の振興 | 主管課 | 教育委員会 |
|------------------|----------------------|------------|-------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）

本村の歴史は古く、村内各地から縄文時代の土器や土偶、古墳時代の須恵器など多数出土している。また史跡を始め数多い歴史遺産が存在する。これら文化財を地域の宝として保護し、また松尾多勢子に代表される村の歴史的遺産に関する資料の収集・保存と活用を図り、郷土への愛着心を高めていく。

施策の現状

郷土への愛着、歴史への関心が低くなっている現状にある。その中で史学会の活動は益々重要となっている。自ら地域の歴史を学ぶ学習会への取組、20輯を迎えた風土記の取組など村の歴史を残す上でも継続していくための支援、一般住民に対しても関心を高めるためのイベントなどを継続的に開催している。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|-------------|----|------|------|------|----|
| 歴史民俗資料館の運営 | 人 | 502 | | 1000 | |
| 埋蔵文化財発掘調査 | 件 | 0 | 3 | | |
| 芸術文化活動への支援 | 団体 | 58 | 59 | 60 | |
| ふるさと探訪 | 人 | 50 | 48 | 100 | |
| 歴史的遺産の整備、保存 | 件 | 2 | 2 | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|--|---------------|
| 施策の課題・問題点 | 今後の方向性 |
| 関心を高めること。 | |
| 今後の方針、対策、進め方 | B |
| <ul style="list-style-type: none"> ・継続した事業の開催。 ・新たな文化遺産の発掘・整備。 | |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

事務事業評価

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 |
|-------------------------|---------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| | 妥当性 | 目的 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | |
| 歴史民俗資料館の運営 2,213千円 | A | B | B | B | A | C | B | B | B | |
| 芸術文化活動グループへの支援 190千円 | B | B | B | B | B | B | B | B | B | |
| 文化財の保存 1,221千円 | A | B | A | B | C | B | B | B | A | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|------------------|------------------|------------|-----------|
| 施策 13 | コミュニティの推進 | 主管課 | 総務課 企画財政係 |
|------------------|------------------|------------|-----------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）
「家庭、近所、隣組、自治会、区、村」の、どの組織の中でも互いの価値観の相違を認め合い、関心・協調性・共同意識を持って安全で快適な住みよい地域社会を築く。

施策の現状
価値観や生活様式の多様化、地域の共同意識や関心の薄れ、人間関係の複雑化・希薄化により隣組や区など地域の自治組織への未加入者は増加し、地域行事への不参加も増えている。また、地域の伝統芸能や文化的行事により連帯や協調性が培われてきたが、近年の社会情勢の変化とともにこれらの連帯・協調性が希薄になりつつある。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|--------------------|----|-------------|-------------|-------------|----|
| 隣組加入世帯数（ ）は加入率 | 世帯 | 1,858(91.8) | 1,884(93.1) | 2,000(98.8) | |
| 自らつくる地域づくり事業申請件数 | 件 | 11 | 18 | 20 | 再掲 |
| 地域発 元気づくり支援金事業実施件数 | 件 | 2 | 4 | 4 | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|---|---------------|
| 施策の課題・問題点 年齢、性別、国籍などにかかわらず村内に住む人々が一緒になって快適・安全で住みよい地域、心の通い合った地域づくりを推進する必要がある。また、急速に進展している少子高齢化は、地域の過疎化と相まって農山村にとってコミュニティの崩壊さえ招きかねない問題となっている。 | 今後の方向性 |
| 今後の方針、対策、進め方 「自らつくる地域づくり事業交付金」や「地域発 元気づくり支援金」「コミュニティ助成事業」などコミュニティ活動を支援する制度の有効活用を促進する。新規定住世帯に対し、隣組・自治会・区への加入の働きかけを行い、コミュニティ活動への参加を促す。 | A |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 総合評価 | 判断理由 |
|---------------------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-------------------------------|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | |
| 自らつくる地域づくり事業 2,101千円 | A | A | B | A | A | A | A | A | A | A | 地区によって取り組み方に温度差がありその克服が課題となる。 |
| 地域発 元気づくり支援金事業 7,815千円 | A | B | C | A | A | A | A | A | A | A | 今後も積極的な活用が求められる。 |
| コミュニティ助成事業 4,500千円 | A | A | C | A | A | A | A | A | A | A | 今後も積極的な活用が求められる。 |
| 千円 | | | | | | | | | | | 選択 |
| 千円 | | | | | | | | | | | 選択 |
| 千円 | | | | | | | | | | | 選択 |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

施策の目的（目指すべき理想の姿）

豊かな自然環境の保全のために、自然保護組織の育成を図り、村内の動植物の実態把握とその保護・保全に努める。又、森林・里山や身近な河川の保全に努め、村民をはじめ多くの人々が、自然とふれあえる場を提供し、それにより、身近な自然の価値の再発見を促し、次の世代に伝えていく気運を高める。さらに、自然体験・自然学習等を通じて、住民意識の啓蒙を図り、公共事業を実施する際には、自然環境の保全に充分配慮する。

施策の現状

・長野県森林づくり支援金活用事業を活用し、平成20年度から中学校周辺の里山環境整備を実施し、平成22年度には荒廃した中学校東側の旧梅畑を整備し、旧東洋大学セミナーハウスの活用視野に環境整備を図った。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|------------|----|------|------|------|----|
| 森林づくり支援金事業 | ha | 1.00 | 1.50 | 1.00 | |
| | | | | | |
| | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

施策の課題・問題点

自然環境は、あらゆる生物の大切な生存基盤であり、誰もが豊かな自然の恵みを享受でき、動植物にとっても良好な生息・生育環境が確保されるように保全する必要がある。うるおいやすずらぎのある暮らしや交流活動に欠くことのできない豊かな自然環境を保全するとともに、自然とのふれあいを通じ、その仕組みや大切さを理解することが必要である。村土の80%を占める緑豊かな森林は、水資源のかん養や国土の保全などの多面的機能を持っており、また、美しい渓谷を形成する河川は人々にうるおいを与える。しかし、森林地帯は手入れが不十分であり、河川は倒木などにより荒廃が進んでいる。村民参加による維持管理体制の育成を図り、豊かな森林、美しい河川を育てていくことが求められている。都市化や産業基盤の整備などにより、自然環境の破壊が見受けられる一方、自然保護をめざして、魚などの水生生物などの調査、観察、保護の活動が行われ、生態系に配慮した水辺環境の再生などの努力も行われている。しかし、住民の自然保護意識の向上とともに、豊かな自然環境を保全・復元する取り組みを村全域に広げて行くのはこれからの課題である。

今後の
方向性

A

今後の方針、対策、進め方

中学校周辺整備は、当年度において一応の完結をし、今後は村内の荒廃森林箇所の環境整備を進める。また、全村的に課題となっている荒廃竹林の整備を進め、健全な竹林環境を取り戻したい。

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

事務事業評価

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 |
|--------------------------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|---------------------------|
| | 妥当性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | 総合評価 | |
| 事業費(人件費は除く) | | | | | | | | | | |
| 森林づくり支援金事業 中学校周辺整備 948千円 | A | A | A | A | A | A | A | A | A | 当該事業実施により、中学校周辺の環境が良くなった。 |
| 虻川渓谷森林間伐整備事業 2016千円 | A | A | A | A | A | A | A | A | A | 当該事業実施により、虻川渓谷の環境が良くなった。 |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|----------|---------------|-----|---------|
| 施策 15 | 水環境の保全 | 主管課 | 環境課 環境係 |
|----------|---------------|-----|---------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）
 公共用水の環境基準を維持するため定期的に水質検査を行い、水質の保全に努める。

施策の現状
 7月に河川排水路5項目検査12箇所及び産廃処分場下流10項目検査2箇所、11月に河川5項目検査12箇所を行っている。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|-------------------|----|------|------|-----|----|
| 県発行の公害関係基準のしおりを参照 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|--|---------------|
| 施策の課題・問題点 | 今後の方向性 |
| <p>今後の方針、対策、進め方 定期的な検査を実施し、水質保全に努める。</p> | |
| A | |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事務事業評価 | | | | | | | | | | | |
|--------|---------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|
| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 総合評価 | 判断理由 |
| | 妥当性 | 目的 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | |
| 河川水質検査 | A | B | A | A | A | A | B | B | B | | |
| 216千円 | | | | | | | | | | | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|------------------|-----------------|------------|-----------|
| 施策 16 | 良好な景観の形成 | 主管課 | 総務課 企画財政係 |
|------------------|-----------------|------------|-----------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）
 美しい景観に対する住民の意識の高揚を図り、豊かな自然と農村のたたずまいを生かし周囲と調和した景観の形成を図る。

施策の現状
 人々の暮らしが農村の美しい景観を育んでいるが、農業生産を放棄した荒廃農地や放置された空家、廃農などにより景観の破壊が進んでいる。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|------------|----|------|------|-----|----|
| 空家改修・取壊し件数 | 件 | 1 | 5 | 5 | |
| | | | | | |
| | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|---|---------------|
| 施策の課題・問題点 | 今後の方向性 |
| 豊丘村の特性を生かし周囲と調和した景観の形成を図るとともに、美しい景観形成に対する住民の意識の高揚を図る必要がある。 | |
| 今後の方針、対策、進め方 | B |
| 環境に配慮した空家改修事業により住宅地の景観の維持に努めるとともに、里山や農地の健全な保全に住民一体となって取り組む。 | |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事務事業評価 | | | | | | | | | | | |
|---------------|---------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|------|
| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 | |
| | 妥当性 | 目的 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | 総合評価 |
| 事業費(人件費は除く) | | | | | | | | | | | |
| 環境に配慮した空家改修事業 | A | A | B | B | C | B | A | B | B | 手入れのできない農地、里山、焼畑が増えつつあり、景観に対する住民意識の高揚と自治会単位での対策が求められる。 | |
| 11,433千円 | | | | | | | | | | | |
| 千円 | | | | | | | | | 選択 | | |
| 千円 | | | | | | | | | 選択 | | |
| 千円 | | | | | | | | | 選択 | | |
| 千円 | | | | | | | | | 選択 | | |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|------------------|------------------|------------|---------|
| 施策 17 | 一般廃棄物処理対策 | 主管課 | 環境課 環境係 |
|------------------|------------------|------------|---------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）
 ゴミの減量化と資源化の推進。不法投棄の未然防止と早期発見。

施策の現状
 埋立ゴミ専門の分別指導員配置や、監視カメラの設置、パトロールの強化を行っている。家庭用生ごみ処理機補助によるゴミの減量化。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|----------------------------|----|------|------|-----|----|
| ゴミの再資源化率(自家処理量を除く)÷70%=達成率 | % | ?? | ?? | 100 | |
| | | | | | |
| | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|--|-----------------------------|
| 施策の課題・問題点 高齢者の分別・収集への課題(福祉収集の検討) | 今後の 方向性 A |
| 今後の方針、対策、進め方 ゴミ分別ガイドブック等の作成・配布により更なる分別の徹底を図り、再資源化を目指す。生ごみ処理機補助の継続、監視員や指導員配置の継続を行う。 | |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事務事業評価 | | | | | | | | | | | |
|-------------|---------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|
| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 | |
| | 妥当性 | 目的 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | 総合評価 |
| 事業費(人件費は除く) | | | | | | | | | | | |
| 一般廃棄物処理 | A | A | A | A | A | A | A | A | A | A | |
| 18,755千円 | | | | | | | | | | | |
| 千円 | | | | | | | | | | | 選択 |
| 千円 | | | | | | | | | | | 選択 |
| 千円 | | | | | | | | | | | 選択 |
| 千円 | | | | | | | | | | | 選択 |
| 千円 | | | | | | | | | | | 選択 |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|------------------|------------------|------------|---------|
| 施策 18 | 産業廃棄物処理対策 | 主管課 | 環境課 環境係 |
|------------------|------------------|------------|---------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）
 産業廃棄物は県の所管事務になるため、県と連携を図り、適正な処理及び管理を指導する

施策の現状

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|---|----|------|------|-----|----|
| 村の職員を長野県職員に併任し、立入り検査権を付与して、産業廃棄物の不適正処理を早期に発見し、早期解決を図る | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|-----------------------|--------------------|
| 施策の課題・問題点 | 今後の 方向性 |
| | |
| 今後の方針、対策、進め方 | B |
| 村内にある産業廃棄物処分場の水質検査の報告 | |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事務事業評価 | | | | | | | | | | | |
|-------------|---------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|-----|
| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | 総合評価 | 判断理由 | |
| | 妥当性 | 目的 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | | | 発展性 |
| 事業費(人件費は除く) | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|-----------------|-----------------|------------|-----------|
| 施策 19 | 安全な村土づくり | 主管課 | 産業建設課 土木係 |
|-----------------|-----------------|------------|-----------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）
 河川、用・排水路の整備を行い、治山・治水対策や土砂災害対策を推進し、人家等に危険を及ぼす危険性のある箇所
 の改修を図り、村土の保全と住民生活の安定を図る。

施策の現状
 用・排水工事については区からの要望に基づき、緊急度・危険度・必要性から判断し実施している。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|-------------------------------------|----|------|------|-----|----|
| 河川清掃など河川保護活動を行うと共に、用・排水路の適正な維持管理を行う | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|---|---------------|
| 施策の課題・問題点 各地区で行った筋場整備事業から約30年が経過し、U字溝等の劣化が目立ってきている。大規模な改修事業については、多額の費用を要するため国庫補助事業などで対応する。 | 今後の方向性 |
| 今後の方針、対策、進め方 用・排水路改修工事については緊急性・必要性を勘案し、改修工事を行っているが今後も同様に実施する。用・排水路改修工事の地元負担金については12%から10%に軽減した。村内のほとんどの一般河川は天井川になっており、その解消や護岸工事の要望があるものの、県事業であり運搬率が低いのが現状であるが、引続き要望活動を行う。 | B |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | | 判断理由 |
|-----------------------|---------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|--------------------------|
| | 妥当性 | 目的 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | 総合評価 | |
| 村単用水路改修工事 13,617千円 | A | A | B | A | B | B | A | A | A | A | 社会資本整備のための積極的に実施する事業である。 |
| 村単排水路改修工事 3,474千円 | A | A | B | A | B | B | A | A | A | A | 社会資本整備のための積極的に実施する事業である。 |
| 千円 | | | | | | | | | | | 選択 |
| 千円 | | | | | | | | | | | 選択 |
| 千円 | | | | | | | | | | | 選択 |
| 千円 | | | | | | | | | | | 選択 |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|----------|-------------------|-----|---------|
| 施策 20 | 消防組織の整備と強化 | 主管課 | 総務課 総務係 |
|----------|-------------------|-----|---------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）

消防組織の整備については、機器の更新、施設の改修及び活動内容の研究を随時行い、今後も計画に沿って整備を進めていく。ただし、消防団員の確保については対象者の減少に加え、労働環境・社会環境の変化により、本人だけでなく家族からも入団を拒否する者が増加しており、現在の団員数を確保することが困難な状況にある。住民に消防団の重要性を周知した上で、最小限必要な団員を確保すべく対応していく。

活動に当たる現在の団員の勤務箇所及び時間をみると、平日昼間での活動能力は著しく低下している中で、現在、補助組織として役場消防班が組織されているが、各区、自治会での自主防災組織の整備が急務であり、村として積極的に推進していく。また、組織された自主防災組織への必要機器、施設の整備を進め、被災時での地域内の要援護者への対応をお願いしていく。併せて、消防団との連携も並行して研究し、その都度必要な対応をとっていく。

施策の現状

消防施設の現状等を鑑み、更新が必要なものについては順次整備を進めている。
消防団員に優遇措置を設け団員の確保に努めているが、毎年苦慮している。
自主防災組織の整備については、村として更に積極的に推進する必要がある。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|--|----|-------------------|-------------------|-----|----|
| ・必要消防施設状況 整備済数(平成元年～)/施設数13(各本部3、林里、中平、市の浜、佐原、堀越、壬生沢福島、山田、小園、伴野原、林原木門) | % | (5/13) 38.4 | (11/13) 84.6 | 100 | |
| ・消防団員状況 団員数/定員数180名 | % | (176/180) 97.7 | (173/180) 96.1 | 100 | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

施策の課題・問題点

消防団員の確保については、対象者の減少や労働環境・社会環境の変化により、依然として苦慮しているのが現状である。非消防団員との不公平感を解消するための優遇措置にも限界があるため、団の活動内容を精査し、消防団員の負担軽減を図る必要がある。

自主防災組織の整備については、地区により意識が様々であるため、更なる意識向上を図るためには、一定の指針を村から地区へ提示すべきである。

今後の
方向性

A

今後の方針、対策、進め方

消防団の重要性を周知するとともに、団員への負担の軽減を図るため団活動について精査する。
地域防災計画の内容を見直し、村と地元地区の連携方法についても具体的に計画に記載する。

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

事務事業評価

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 | |
|-------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---------------|------|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | 総合評価 |
| 事業費(人件費は除く) | | | | | | | | | | | |
| 消防団らん券事業 | B | B | B | B | C | B | A | B | B | 団員確保のため、必要性あり | |
| 1,239千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|------------------|----------------|------------|---------|
| 施策 21 | 防災対策の充実 | 主管課 | 総務課 総務係 |
|------------------|----------------|------------|---------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）
 大規模災害に備えた地域防災計画の拡充や防災施設、防災情報網の整備を図る。
 また、関係機関と連携し、災害時の応急体制、相互応援体制の確保に努める。
 さらに災害に強い地域社会を形成するため、防災意識の高揚を図り、自主防災組織の充実を図る。

施策の現状
 平成23年3月に東北大震災等が発生したことから、住民の防災に対する意識は高まっている。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|--------------------------|----|------|------|-----------|----|
| ・同報防災無線のデジタル化状況 完了数/必要数1 | % | 0 | | 100 | |
| ・メール配信システム加入者数 | 人 | 237 | 694 | 村内受信可能者全員 | |
| | | | | | |
| | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|---|-----------------------------|
| 施策の課題・問題点 地域防災計画の見直し、地域の要望を把握し、施策に反映させる必要がある。 | 今後の 方向性 A |
| 今後の方針、対策、進め方 地域防災計画の見直しと各種マニュアルの整備並びに基盤整備等を進める。 | |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 | |
|--|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------------------------------------|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | 総合評価 |
| 同報・行政無線設備保守点検 事業費(人件費は除く) 2100千円 | B | B | B | B | A | A | B | B | B | B | 災害時はもとより、平時においても、住民への広報手段として有効である。 |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|------------------|---------------------|------------|---------|
| 施策 23 | 公共交通機関の確保と充実 | 主管課 | 総務課 総務係 |
|------------------|---------------------|------------|---------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）
誰もが便利に使える公共交通の運行を目指す。

施策の現状
限られた予算の中で利便性の高い運行を実現するため、実証運行と研究を続けている。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|-----------|----|--------|--------|--------|----|
| 路線バス乗客数 | 人 | 5,998 | 6,140 | 6,500 | |
| スクールバス乗客数 | 人 | 18,000 | 18,000 | 18,000 | |
| | | | | | |
| | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|--|-----------------------------|
| 施策の課題・問題点 路線バス、福祉タクシー、ボランティアセンター送迎サービスの一体的な取り組みの推進 | 今後の 方向性 A |
| 今後の方針、対策、進め方 住民ニーズに見合った交通システムの構築を目指す。 | |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 |
|-------------------------------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----------------------------------|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | |
| 路線バス運行委託 事業費(人件費は除く) 13,209千円 | A | B | B | B | A | A | B | A | B | 利便性を向上させ、地域住民の要望に応えられるような運行を目指す。 |
| | | | | | | | | | 選択 | |
| | | | | | | | | | 選択 | |
| | | | | | | | | | 選択 | |
| | | | | | | | | | 選択 | |
| | | | | | | | | | 選択 | |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|-----------------|-------------|------------|-----------|
| 施策 24 | 住宅対策 | 主管課 | 総務課 企画財政係 |
|-----------------|-------------|------------|-----------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）
土地利用計画に基づいて地域バランスを考慮し、快適で住みよい魅力ある住宅環境を官民間問わず整備するとともに、農業地域との調和を図りながら田園風景と共生する農村集落を目指す。

施策の現状
核家族化の進行が進み子育て期の世帯を中心に、村外に住み替える傾向が見られる。また、人々の価値観や生活様式の変化、高齢化の進展に伴って住宅に対するニーズは多様化してきている。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|--------------|----|------|------|-----|-------|
| 住宅団地造成 | 区画 | 47 | 47 | 60 | 累計区画数 |
| 賃貸住宅戸数 | 戸 | 13 | 18 | 20 | 累計戸数 |
| 住宅用地等取得助成金 | 戸 | 27 | 39 | 50 | 累計戸数 |
| 新築住宅固定資産税助成金 | 戸 | 85 | 170 | 200 | 累計戸数 |
| 太陽光発電装置補助戸数 | 戸 | 65 | 91 | 100 | 累計戸数 |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|---|------------------------|
| 施策の課題・問題点 長期的展望に立った土地利用計画に基づき、秩序ある開発を推進する。 | 今後の方向性 A |
| 今後の方針、対策、進め方 人口構想実現のために、土地利用計画に基づき農業地域との調和を図りながら、住宅地域の拡大を図る。また、活力ある村づくりのために若者定住対策として、戸建住宅、宅地造成、空き家対策を進めるとともに、住宅取得に対する支援制度を拡充する。 | |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 総合評価 | 判断理由 |
|--------------------------|---------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|---|
| | 妥当性 | 目的 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | |
| 中芝戸建賃貸住宅の建設 122,414千円 | A | A | B | C | B | A | A | A | A | A | 5棟建設のうち3棟は村外からの転入者であり、人口増対策に寄与している。 |
| 住宅用地等取得助成金 6,880千円 | A | A | A | B | B | B | A | A | A | A | 住宅用地取得にのみならず住宅建築への助成措置も拡充する必要がある。 |
| 新築住宅固定資産税助成金 4,506千円 | A | B | A | A | C | A | A | B | B | B | H19からH21の間に新築された住宅に適用される時限措置のため、効果は限定的。 |
| 太陽光発電装置設置補助 5,686千円 | A | A | B | B | B | A | A | A | A | A | 東日本大震災を契機により自然エネルギー住宅に関心が集まり、ニーズの高まりが予想される。 |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|----------|-------|-----|-----------|
| 施策 25 | 公園の整備 | 主管課 | 産業建設課 土木係 |
|----------|-------|-----|-----------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）
 既存の公園の維持管理を行い、村民の生活に潤いと安らぎをもたらす。

施策の現状
 村内8箇所ある公園について各区に維持管理を委託しており、維持管理はどの公園も適切に行われている。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|---------|----|------|------|-----|----|
| 公園の維持管理 | 箇所 | 8 | 8 | 8 | |
| | | | | | |
| | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|---|---------------|
| 施策の課題・問題点 どの公園も建設から約20年が経過し、老朽化による遊具の不具合が目立ってきており、修繕費の増大が見込まれる。 | 今後の方向性 |
| 今後の方針、対策、進め方 公園管理については適切に行われているが、人的破損による修繕が必要な事態も発生しており、今後はみんなの公園であることを理解してもらい、大切に使うよう広報誌等を使い、啓発活動を行っている。 | B |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事務事業評価 | | | | | | | | | | | |
|-------------|---------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---------------------------|------|
| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 | |
| | 妥当性 | 目的 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | 総合評価 |
| 事業費(人件費は除く) | | | | | | | | | | | |
| 公園維持管理交付金 | A | B | B | A | B | A | A | A | B | 維持管理について業者委託等になると支出が増大する。 | |
| 800千円 | | | | | | | | | 選択 | | |
| 千円 | | | | | | | | | 選択 | | |
| 千円 | | | | | | | | | 選択 | | |
| 千円 | | | | | | | | | 選択 | | |
| 千円 | | | | | | | | | 選択 | | |
| 千円 | | | | | | | | | 選択 | | |
| 千円 | | | | | | | | | 選択 | | |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|-----------------|--------------|------------|-----------|
| 施策 26 | 消費者行政 | 主管課 | 産業建設課 振興係 |
|-----------------|--------------|------------|-----------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）
 村民の消費生活に関する問題や事故の発生を未然に防ぐために、正確な情報の発信や研修会を開催し、住民一人ひとりの知識向上を図り、安心して安全な消費生活を確保する。また、ゴミの減量化・リサイクル等、環境に配慮した運動に積極的に取り組む。放射能に対する知識向上も必要である。

施策の現状
 現在、消費生活運動活動団体が消滅しており、行政主体の活動をしている。
 学校教育を通じた子供層への周知、若年層への周知、主婦層への周知、男性への周知、高齢者への周知のために、それぞれの層での組織づくりが必要である。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|-----------------|----|------|------|-----|-----|
| 消費生活相談件数(県、村、他) | 件 | 55 | 43 | 0 | |
| | | 6 | 2 | | 村のみ |
| | | | | | |
| | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|---|------------------------|
| 施策の課題・問題点 当面は、行政主体の啓蒙活動が主となるが、早急に住民主体で活動出来る組織づくりに取り組む必要がある。ただし、住民に過度な負担とならない方法の研究が必要。 | 今後の方向性 B |
| 今後の方針、対策、進め方 消費者が正しい判断をすることが出来るよう、行政が情報を発信し、必要に応じて研修会を実施。村内の消費者が、安心安全で環境に配慮した消費生活を送るために必要な、団体の組織づくりの推進。 | |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 | |
|---------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|---|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | 総合評価 |
| 消費者啓蒙活動 | B | B | B | B | A | B | B | B | B | B | 行政からの押し付けではなく、必要性を理解して頂き、組織づくりとなるため、時間はかかる。 |
| 1千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|------------------|------------------|------------|---------|
| 施策 27 | 交通安全対策の充実 | 主管課 | 総務課 総務係 |
|------------------|------------------|------------|---------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）
 村内での交通事故撲滅のために、住民への交通安全意識の徹底を図り、村内での交通事故ゼロ、村民の交通違反者ゼロを目指す。
 各区、村安協、PTA、保育所保護者会、土木関係機関と共に、交通安全施設の充実を研究し、関係機関と共に協力施設整備・改良・改修を実施していく。

施策の現状
 区、PTA、保育所保護者会などからの要望により、交通安全施設整備を推進している。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|-----------|----|------|------|-----|----|
| 村内交通死亡事故数 | 件 | 1 | 1 | 0 | |
| 村内交通事故数 | 件 | 23 | 15 | 0 | |
| | | | | | |
| | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|--|------------------------|
| 施策の課題・問題点 関係機関との連携を深め、相互に協力して施策の高度化を図る必要がある。 | 今後の方向性 B |
| 今後の方針、対策、進め方 交通安全施設の整備内容について、成果を評価を行う。また、関係機関との連携を深め、相互に協力して施策の高度化を図る。 | |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | | 判断理由 |
|-----------------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-------------|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | 総合評価 | |
| 交通安全標識設置工事事業 882千円 | A | A | B | B | A | A | B | B | B | B | 継続した事業実施が必要 |
| 交通安全協会交付金 900千円 | A | B | A | B | A | B | A | B | B | B | 継続した事業実施が必要 |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

施策 29 水道施設の整備と充実

主管課

環境課 上下水道係

施策の目的（目指すべき理想の姿）

良好な水源の確保に努め、安全で安定した水道水の供給を図ると共に、効率的な施設等の改良及び修繕を行うことにより、維持費を軽減し、有収率の向上を図り加入者に負担をかける水の供給する。

施策の現状

本村の村営水道は、平成22年度末現在、給水人口7,001人、普及率99.1%となっています。又、有収率は77.0%と昨年度よりは良くなっていますが、水道管等施設の老朽化により年々低下してきている。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|--------------------------------|----|------|------|-----|----|
| 単独採算の達成（一般会計繰入金・繰越金を含まない単年度会計） | % | 85.6 | 83.2 | 90 | |
| 有収率の向上 | % | 75.6 | 77 | 90 | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

施策の課題・問題点

安定した水源確保と水質管理を実現すべく、県営郷土沢小規模生活ダムからの取水を計画していたが、ダム建設中止を受け、以前と同じ地下水に依存した水源確保に取り組んでいる。しかし、近年硝酸態窒素の濃度が増加する水源もあり、地下水の汚染が懸念される中、新たな水源確保として、表流水を浄化する方向も検討する必要がある。また、水道管等施設の老朽化も進んでおることから、これらの更新も大きな課題となってきた。

今後の方向性

A

今後の方針、対策、進め方

簡易水道統合計画に基づき、平成28年までに、現在の北部、南部、郷土沢の三つの簡易水道を変更認可を経て事業統合し、上水道事業に移行することになっており、これに向けて、管路台帳の整備、老朽化した施設の改良や統合する施設の連絡管の布設等、統合整備事業を行う。

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

事務事業評価

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 | |
|------------------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|--------------------------------------|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | 総合評価 |
| 水道施設維持管理事業 57,239千円 | A | B | A | B | A | A | B | B | B | 選択 | 水道施設の維持管理のため、施設の更新、修繕工事の実施等必要な事業 |
| 水道施設建設改良事業 2,736千円 | A | A | A | B | A | B | B | A | A | 選択 | 老朽化した水道管の更新・新水源の発掘事業などこれから重要となってくる事業 |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |
| 千円 | | | | | | | | | | 選択 | |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|------------------|--------------------|------------|-----------|
| 施策 30 | 下水道施設の整備と充実 | 主管課 | 環境課 上下水道係 |
|------------------|--------------------|------------|-----------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）
 下水道施設の整備充実を行い公共水域の環境保全を図ることを目的とし、安価で安定した汚水処理の実現と適切な施設の維持管理を行う。

施策の現状
 本年度は「下水道本管布設先行投資」を実施。また、農集伴野処理場の修繕により汚水処理能力は向上し放流先での環境保全を保つことが出来た。
 しかし、供用開始から15年以上経ち管渠の点検・修繕、処理場の機器類の修繕等の維持管理費の増加が見られる。今後、農集河野処理場・豊丘浄化センターにおける大規模修繕を実施しなければならない。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|----------------------|-----|-------|-------|-------|----|
| 下水道接続率の向上(符標・農集の接続率) | % | 97.8 | 98.0 | 100.0 | |
| 浄化槽普及率の向上 | % | 93.8 | 94.2 | 100.0 | |
| 下水道汚水処理原価のうち維持管理費分 | 円/円 | 128.8 | 144.1 | 204.0 | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|---|---------------|
| 施策の課題・問題点 | 今後の方向性 |
| 各処理場での機器修繕費の増加 各処理区における本管調査・修繕が必要 農集河野処理場及び豊丘浄化センターの大規模修繕 それに伴う財源の不足 | A |
| 今後の方針、対策、進め方 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度見直した「下水道計画」に基づき、下水道接続率・浄化槽普及率は、目標値に近づけるべく普及啓発を行う。 ・下水道施設は供用開始から一定の年月が経過しており、H22年度から農集伴野をはじめ大規模修繕が計画され、単年度に多くの修繕料が集中しないよう計画的修繕を実施していく。 ・浄化槽は、耐用年数を越えた浄化槽があり、大規模修繕・入替を見据えた補助金制度を活用する。 ・特別会計事業費の増額を見込んだ上での「使用料審議会」の開催 | |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 | |
|---------------------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|---|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | 総合評価 |
| 下水道施設管理業務 50,302 千円 | A | A | A | B | B | A | A | A | A | A | 安定的で適切な処理場の維持管理を行うには今後も重要な業務となる。 |
| 下水道使用料徴収業務 0 千円 | A | B | A | B | B | B | B | A | B | B | これ以上の財源不足は特別会計の運営を危うくする恐れがあり、現状維持を確保する。 |
| 下水道接続推進業務 2,012 千円 | A | B | A | B | C | B | B | A | A | A | 接続率は98.0%となり、目標値100%を目指し、各戸訪問等行い未接続世帯と密な連絡を図る。 |
| 下水道本管布設先行投資事業 2,789 千円 | A | B | B | B | B | B | B | A | A | A | この事業は今後の柱となりうる事業である。しかし、H24.10までの期限立法であるため継続の検討を行う。 |
| 汚泥処理業務 13,000 千円 | B | B | A | B | B | B | B | A | B | B | 汚泥処理単価は年々低価格化されているが、新たな処分方法の検討・研究を行う。 |
| 浄化槽維持管理事業 2,421 千円 | A | A | A | B | B | A | A | A | A | A | 耐用年数を越えた浄化槽が増えて行く中、長寿命化させるためにも修繕が必要となってきている。 |
| 浄化槽普及推進業務 708 千円 | A | A | A | B | C | B | B | A | B | B | 普及率は94%を超えているが、補助金等を鑑みながら推進していく。 |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

施策の目的（目指すべき理想の姿）

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができる長寿社会を築くため、保健・医療・福祉の連携を図りながら、きの細やかな在宅福祉サービスの提供や広域圏での施設整備が必要である。また、介護期間の長期化・重症化による負担を軽減するために適切なサービスの利用ができるよう介護保険の適切な運営に努める。

施策の現状

H23年度は、H21年度からH23年度までの第4期介護保険事業に対する評価とH24年度からH26年度までの第5期介護保険事業計画策定年である。地域密着サービスの小規模特養建設について建設研究会で検討し、第5期計画に盛り込む予定で進んでいる。その他、第5期介護保険事業は、介護保険法改正により新たな介護予防事業を保険者(豊丘村)の判断で創設できることとされている。また、増加している認知症に重点的に取り組むことその他、地域包括ケアの推進が重視されている。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|-------------------|----|---------|---------|-------|----|
| 要介護認定者の推移 | 人 | 365 | 370 | 372 | |
| 介護給付費(介護サービス費の推移) | 千円 | 602,683 | 666,052 | | |
| 介護予防事業への参加者 | 人 | 4,774 | 4,485 | 4,500 | |
| 高齢者福祉の充実 | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

施策の課題・問題点

第4期介護保険計画の推計を上回る介護給付費の増加に伴い、介護保険料の増額を後押しを得ない状況である。介護度3～5の重症化率が上昇しており、給付費の増加にも関与していると思われる。重症化率は、近隣市町村と比較しても高いが、認定者の年齢の比較や重症化の要因分析が今後の課題である。小規模特養建設によりさらに給付費の増加が見込まれる為、介護予防事業の充実が必要である。

今後の方向性

A

今後の方針、対策、進め方

介護予防事業の充実
「おいでなんしょ会」等の地域のミニデイサービスを地域の協力を得ながら、実施していない地域でも行えるよう支援し、地域のミニデイサービスを拡大していく。その他、重症化の要因分析から得られた必要な施策を第5期介護保険事業計画策定委員会で計画化し、実践していく。

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

事務事業評価

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 総合評価 | 判断理由 |
|----------------------------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|--|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | |
| 介護給付 事業費(人件費は除く) 666,052千円 | A | A | A | B | B | A | B | A | A | A | 介護給付費は、増大しており、施設介護志向により、給付費の更なる増大が予測されることから、在宅介護サービスの基盤整備が必要 |
| 介護予防事業 15,265千円 | A | A | A | A | A | A | B | A | A | A | 住み慣れた地域で人生を全うする為または、増大する介護給付費を抑制し、介護保険の健全運営を図るうえでも介護予防は重要であり、効果的な事業計画が求められている。 |
| 包括支援センターの充実 12,800千円 | A | A | A | A | A | A | B | A | A | A | 介護相談や認知症の増加に伴う権利擁護事業の相談の増加が予測され、相談窓口としての役割が重要となる。 |
| 地域包括ケアの推進・基盤整備 7,954千円 | A | B | A | A | A | A | B | A | A | A | 第5期介護保険法改正で、地域包括推進の方向性がより明確に示された |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|-----------------|-----------------|------------|---------|
| 施策 35 | 障害者福祉の充実 | 主管課 | 住民課 福祉係 |
|-----------------|-----------------|------------|---------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）

障害福祉サービスの充実・障害者医療費の軽減

施策の現状

障害者自立支援法が施行され新制度も定着しつつあり、利用者が個人のニーズに応じたサービスを利用している。新制度の移行に伴い、個人負担増などの問題も心配されたが、国の経過措置により負担上限額が設定され急激な変化はなかった。平成22年度からは住民税非課税者の利用者負担が無料となり、サービスがより利用しやすくなっている。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|------------|----|-------|-------|-------|----|
| 障害者自立支援給付 | 人 | 56 | 58 | 60 | |
| 地域生活支援事業 | 人 | 35 | 37 | 40 | |
| 福祉医療(障害者分) | 件数 | 4,746 | 4,698 | 4,700 | |
| | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

施策の課題・問題点

養護学校卒業の知的障害者や、精神障害者のサービス利用が増加している。利用者や利用量の増加に伴い、サービスの種類によっては、事業者の不足が心配される。新制度がスタートして5年が経過し、サービス提供も安定的に行なわれているが、今後新たな制度改正も予定されており、障害者やサービス提供事業所に混乱を生じさせないための周知や対応が必要である。

今後の方向性

今後の方針、対策、進め方

今後の制度改正も視野に入れながら、障害のある人が自立した日常生活、または社会生活を営むことができるよう、障害福祉サービス及び相談支援、並びに地域生活支援事業の有効活用を継続したい。障害者の福祉医療は、県単制度に基づき今後も継続して実施する。

B

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

事務事業評価

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 |
|------------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------------------------------------|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | |
| 障害福祉サービス(自立支援給付) | A | B | A | B | C | A | A | B | B | 相談支援を充実させながら、個人の生活に適したサービス利用を継続させたい。 |
| 事業費(人件費は除く) | | | | | | | | | | |
| 104,646千円 | | | | | | | | | | |
| 地域生活支援事業 | A | B | A | B | C | A | A | B | B | 住み慣れた地域での生活や活動に有効な施策であり、継続して実施。 |
| 事業費 | | | | | | | | | | |
| 10,827千円 | | | | | | | | | | |
| 福祉医療(障害者分) | A | B | A | B | B | A | A | B | B | 県の補助を受けながら継続して実施。 |
| 事業費 | | | | | | | | | | |
| 18,357千円 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 選択 |
| | | | | | | | | | | 選択 |
| | | | | | | | | | | 選択 |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

施策の目的（目指すべき理想の姿）

子育て支援施策（出産祝金・子育て支援センター事業）と児童・母子福祉を充実すると共に、家庭・地域・学校・行政が連携して、安心して子育てができる村を目指す。また、小学生の子育て家庭の支援・放課後児童の健全育成のために児童クラブ事業を行う。

施策の現状

子育て支援センター事業は、子育て家庭の育児不安や子育て中の母親の孤立感解消に役立っている。育児相談回数は年々増加しており、相談事業の必要性・重要性が高まっている。また、保育所・乳幼児健診・親子交流教室に臨床心理士を派遣して、発達心理に合わせた支援や、保護者の発達相談に応じて育児不安を解消する支援も行なっている。児童クラブでは、遊びを中心に充実した保育が行われており、放課後児童の健全育成の場となっている。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|-----------------|----|-------|-------|-----|----|
| 出産祝金 | 円 | 5,470 | 3,450 | | |
| 親子交流教室(年齢別)開催回数 | 回 | 40 | 40 | 40 | |
| 児童クラブ利用児童数の増加 | % | 65 | 68 | 80 | |
| 子育てリフレッシュ講習会 | 回 | 6 | 7 | 8 | |
| 児童心理相談員巡回 | 回 | 50 | 62 | 80 | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

施策の課題・問題点

子育て支援センター業務の課題は、子育てサロンを毎日行うことと、子育てサロン専用の場所が必要である。（保護者からの要望も多数寄せられている）

今後の
方向性

子育て支援センター事業については、センター機能の移転も検討しながら活動の更なる充実を図る。児童心理相談員巡回事業は、養護学校利用児童の増加や不登校などの諸問題に早期の対応をするため、今後も充実が必要。児童クラブは、河野施設の移転や改築も視野に入れながら、安心して子どもを預けられる活動を継続し、子育て支援に役立てたい。

A

【今後の方向性の判定基準】 A…向上 B…維持 C…減少

事務事業評価

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 | |
|----------------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|---|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | 総合評価 |
| 事業費(人件費は除く) | | | | | | | | | | | |
| 出産祝金 3,450千円 | A | A | B | B | B | B | A | B | B | B | 事業の成果は上がっており、第3子以降の出産が増えている。 |
| 親子交流教室 110千円 | A | A | B | A | B | A | B | A | A | A | 核家族化が進み、子育てに悩みや不安を持つ保護者に対しサポートする事ができ、保護者相互の交流も図られている。 |
| 児童クラブ運営 9,734千円 | A | A | A | B | B | A | B | B | B | B | 働きながら子育てしている家庭への大切な支援策である。利用人数も年々増加している。 |
| 子育てリフレッシュ講習会 60千円 | A | A | B | B | B | A | B | A | B | B | 子育てがたいへんで内向きになりやすく疲れがちな母親に対し、元気が与えられるよう今後も継続したい。 |
| 児童心理相談員巡回 605千円 | A | A | B | A | B | A | A | A | A | A | 親の悩みに対し専門職が対応するため、効果が上がっている。増加するグレーゾーンの子に、適切な対処や支援が保育士などで行なわれている。 |
| 保育料軽減 6,700千円 | A | A | B | B | B | A | A | B | B | B | 子育て支援策として有効である。 |
| 子育てサロン 30千円 | A | A | B | A | B | A | B | A | A | A | 母親の孤立化・虐待予防・友達作りにも有効である。実施場所を検討し今後も充実した活動が必要。 |

【総合評価・理事者評価の判定基準】 A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|------------------|-----------------|------------|-----------|
| 施策 37 | 健康づくりの充実 | 主管課 | 住民課 保健衛生係 |
|------------------|-----------------|------------|-----------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）
 住民1人1人が主体的に健康管理に取り組む事により、65歳未満の早世死亡や障害の予防ができ、心身共に健やかな生涯をおくることができる。

施策の現状
 ・近年がんについては、医療技術の向上により早期発見、治療により治癒が望める疾患となりつつある、5年生存率も(がんによって差はあるが)高まってきている。しかし、集団検診の受診率は伸びておらず当村も例外ではない。65歳以下の死亡中がん死亡が約半数を占めており早世死亡の原因ともなっている。
 ・経済不況や、過剰労働等の社会情勢を背景にうつ病や、自殺が増加している。全国的にも自殺予防、うつの理解を広める働きかけは行われている。
 ・小中学生に脂質代謝異常、消防団員に高血糖・高血圧者が見られるなど生活習慣病が若年化している。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|---|----|------|------|-----|----|
| 65歳未満の若年志望者(前死亡に占める若年死亡割合) | % | 9.2 | 12 | 5 | |
| 65歳未満(介護保険2号被保険者)の要介護認定率(40歳～65歳人口に占める要介護認定者) | % | 0.17 | 0.2 | 0.1 | |
| | | | | | |
| | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|--|---------------|
| 施策の課題・問題点 <ul style="list-style-type: none"> ・がん検診は40歳以上の(子宮頸がんは20歳以上)住民を対象に行っているが、職場検診の利用や人間ドック受診率あり計画な受診状況がつかない。一方で集団検診の受診率も横ばい状況であり個人に対し健診受診の必要性を周知する必要がある。 ・うつを含める精神疾患、自殺予防について地域の意識を高めていく必要がある。 ・幼少時からの障害を通じた生活習慣病予防が必要である。 | 今後の方向性 |
| 今後の方針、対策、進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・22年度に実施した胃・大腸・前立腺・乳房・子宮頸がんの集団検診に加え、肺がん検診を導入し、加えて女性特有がん検診(乳房・子宮頸がん)働く世代のがん検診(大腸がん)推進事業に取り組み受診率向上に向け受診勧奨する。 ・うつ状態について地域や職場で相談を受けることが多い民生委員、社協職員、職場の役職員にゲートキーパーとしてうつ・自殺予防の学習会を実施し地域での理解を深める。 ・血液検査の異常者に対し個別対応し生活習慣の改善を促す。 | A |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 |
|------------------------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | |
| 各種がん検診実施事業 3,910千円 | A | A | A | B | B | A | B | A | A | がん対策では早期の発見は重要であり、検診の精度、有効性を検討しつつ受診を勧める必要がある。 |
| 消防団血液検査・2次健診および健康相談 245千円 | A | B | B | A | B | B | B | A | A | 生活習慣病は早世のみならず、障がいや要介護状態の原因でもあり早期の予防が重要である。 |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

施策の目的（目指すべき理想の姿）

・医療制度改革の動向や医療費の推移、基金の残高等に留意しながら毎年度の保険料率の設定を行い、健全な国民健康保険財政の運営に努める。
 ・40～74歳の被保険者を対象に行う特定健診の受診率の増加を図るほか、各被保険者の状態に合わせた特定保健指導を行い、生活習慣病の予防・改善を支援し、最終的には医療費の抑制を図る。
 ・後期高齢者医療制度については、保険者である広域連合と連携しつつ、適切な保険料徴収、申請等の受付業務を行う。

施策の現状

・後期高齢者医療制度を廃止することを契機に始まった、新たな高齢者医療制度は、当初25年施行で進められていたが「社会保障と税の一体改革」という基で大きく見直しが行われており、当面現行の医療制度での運営となる見込みである。基金に依存する当村の国保財政は、医療費の抑制と25年度に施行予定の後期高齢者支援金の加算・減算措置で、加算されないようにするため特定健診受診率の向上と重症化予防に向け取り組んでいる。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|-------------------------|----|---------|---------|---------|---------|
| 1人当たり医療費(国保一般) | 円 | 251,517 | 246,942 | 200,000 | |
| 1人当たり医療費(国保退職) | 円 | 380,145 | 224,220 | 270,000 | |
| 1人当たり国民健康保険税額(医療分+支援金分) | 円 | 49,905 | 54,888 | 60,000 | |
| 特定健診の受診率 | % | 51.9 | 48.8 | 65 | 24年度65% |
| 特定保健指導の実施率 | % | 89 | 53.6 | 70 | |
| メタボリック該当者・予備軍の減少率 | % | 10.9 | 9.7 | 10 | |
| 後期高齢者医療保険料 徴収率 | % | 100 | 99.95 | 100 | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

施策の課題・問題点

医療制度の下で適正な運営を維持していく。
 特定健診受診勧奨とその結果を基に実施する、保健指導(生活習慣の改善)には、本人の意識や努力(頑張り)が必要であり重症化予防のための理解を得るのに難しい場合がある。

今後の方向性

今後の方針、対策、進め方

生活習慣病予防のための健康診査の勧奨、及び保健指導を実施し被保険者の健康維持と医療費抑制に繋げていく。また、特定保健指導で医療費の抑制に繋がっている先進地自治体の研修も取り入れる必要がある。

A

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

事務事業評価

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 | |
|-----------------------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|---|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | 総合評価 |
| 事業費(人件費は除く) | | | | | | | | | | | |
| 国保)レセプト点検 156千円 | B | B | A | A | C | B | C | B | B | B | 適正にするべきことであり、現状の国保連に委託することが総合的に有効と判断する。 |
| 国保)被保険者適用の適正化 39千円 | A | B | A | B | C | A | A | B | B | B | 国保の制度上不可欠な事業である。 |
| 国保)特定健康診査、特定保健指導 3,818千円 | A | B | A | B | C | A | B | A | A | A | 市町村が保険者であり限り重点的に実施しなければならない。 |
| 国保)保健事業 1,766千円 | A | B | B | B | C | A | B | A | A | A | 医療費抑制のためにも特定健診対象者以外の保健指導は必須である。 |
| 後期)保険料徴収 667千円 | A | B | A | B | B | A | A | B | B | B | 後期高齢医療の制度上、適正にするべきことである。 |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

施策の目的（目指すべき理想の姿）

村内の農業生産力向上のため、農業経営の近代化・合理化・省力化を推進し、優良農家の増加を目指す。認定農業者を積極的に支援し、新たに意欲ある農家・農業法人を認定し、村内の農業に活力を与える。新規に農業を営む者、後継者として農業を営む者を応援し、将来にわたり農業の担い手の確保及び育成を積極的に行う。遊休農地を解消するため、有効な地域営農システムを構築し、農地の荒廃を防ぐ。

施策の現状

農商指導員・普及所普及員により、効果的な作物誘導、経営方法の指導、施設回収、機器購入等により、村内の優良農家数は維持の状況。認定農業者への推進政策により、意欲ある農家・農業法人が育ちつつある。積極的に新規就農者の受入れ、また農業後継者を育成するために、新規支援事業の創設が必要である。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|--------------|----|------|------|------|----|
| 認定農業者数 | 人 | 49 | 50 | 前年以上 | |
| 集落営農地区・団体 | 組織 | 0 | 0 | 1 | |
| 新規就農者数(法人含む) | 人 | 0 | 1 | 1 | |
| 遊休農地の復元 | ha | 0.7 | 2.3 | 3 | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|--|---------------|
| 施策の課題・問題点 | 今後の方向性 |
| 農業従事者の高齢化により農地の維持が大変となっている現状の中、農産物の価格の低迷が続き、優良農家でも現在の経営規模を維持する状況で、規模拡大農家は少ない。よって、新規就農者と農業後継者及び農業法人に期待している。 | |
| 今後の方針、対策、進め方 | B |
| 優良農地の荒廃は、村・農業委員会・農協及び地域が丸となって防ぎ、農地を守っていく。効率の良い、集約化した農業経営を推進していく。意欲ある者には積極的な政策を投じ、活力のある農業経営を目指す。 | |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

事務事業評価

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 |
|--|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----------------------------|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | |
| げんき農業支援事業 7210千円 | A | B | A | A | B | B | B | B | B | 経営維持が現状 |
| 農業総合振興事業 園芸特産振興事業 4218千円 | A | B | A | A | B | B | B | B | B | 経営維持が現状 |
| 担い手支援事業耕作支援金 1142千円 | A | B | A | A | C | B | A | B | B | 経営維持が現状 |
| 交流センター運営事業 18573千円 | A | B | B | A | A | A | A | A | A | 事業量が伸びている |
| 有害鳥獣駆除事業 13384千円 | A | A | A | A | B | A | B | A | B | 現状の成果は横ばいだが、今後の備置で成果が見込まれる |
| 中山間地農業直接支払事業 農地・水・環境向上対策交付金 事業 2113千円 | A | B | A | A | B | B | A | A | A | 地域主体による農地・農業施設の維持管理意識が高まった |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

施策の目的（目指すべき理想の姿）

林業の復興のために、森林の持つ水源かん養や国土保全など多面的機能を村民自らが自覚し、村民自らが森林を守り、親しめる取り組みを図る。特に森林所有者には、広報などにより各種補助事業の導入を促進し、手入れ不足の森林の整備が図られるよう努める。また、松くい虫被害拡大防止を図るため、送電線南信幹線沿いを防護帯として、薬剤空中散布及び伐倒駆除を環境問題などに配慮し実施する。また、被害地においては、赤松林から他の樹種への転換事業を推進し、森林の再生に努める。実施に当たっては、これらの取り組みを総合的に推進し、効果的・効率的な運用に努める。さらに、造林事業（間伐等）の推進を図るため、新たな造林計画や間伐団地を森林所有者と協議の上設定し実施していく。また特用農林産物（茸類）・山取花木等の生産を推進し、里山づくりに努める。有害鳥獣対策として、個体調整に取り組み、共存できるまでの頭数の駆除を実施するほか、樹木の保護のために防護柵等の設置を行う。

施策の現状

健全な森林づくりのための除間伐・下刈り等の推進、松くい虫対策として伐倒くん蒸事業及び薬剤空中散布事業の実施、有害鳥獣対策として個体数調整の推進と次年度以降に予定される防護柵の設置検討協議会を開催した。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|----------------|----|-------|-------|-----|----|
| 森林間伐面積(県事業を含む) | ha | 48 | 15 | 100 | |
| 松くい虫駆除量(伐倒くん蒸) | m3 | 1,300 | 1,000 | 700 | |
| 有害鳥獣捕獲頭数 | 頭 | 880 | 810 | 800 | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

施策の課題・問題点

本村は森林率80%と多くの森林資源を保有しているが、長引く木材価格の低迷により森林所有者の森林への関心は低く、手入れ不足の放置された森林が増えてきている。そんな中で森林の40%を占め村の特産物「松茸」を産出する赤松林は重要な財産として管理されているが、その赤松林を枯死させる松くい虫被害が平成5年に村内で確認されてからは、その維持が危ぶまれている。このため伐倒くん蒸により被害拡大防止に努めてきたが、平成13年度より新たに薬剤空中散布を取り入れ、村木である赤松の保全に努めている。また、県の重要課題のひとつとなった里山整備事業（間伐等）の推進に努めているが、対象となる補助事業は所有者負担が伴うため、所有者の理解と協力が必要である。さらに有害鳥獣の増加による林業への被害が年々増加する中、有害鳥獣対策が重要な課題となってきている。

今後の方向性

B

今後の方針、対策、進め方

- ・健全な森林づくりのために今後も除間伐及び下刈り等の事業を推進していく。
- ・松くい虫対策は、被害急速拡大に一応の歯止めがかかってきたため、伐倒くん蒸事業は継続していくが、薬剤の空中散布事業については、実施について検討が必要。
- ・有害鳥獣対策は、防護柵の設置と個体数調整を行うことによる被害拡大防止を今後も継続していく。

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

事務事業評価

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 |
|-----------------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------------------------------------|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | |
| 森林整備事業 3899千円 | A | A | A | B | A | B | A | B | B | 未整備の森林があるため。 |
| 松くい虫駆除対策事業 27783千円 | A | A | A | B | A | A | A | B | A | 効果に一定の目途が立ったため。 |
| 有害鳥獣対策事業 11384千円 | A | A | A | B | A | A | A | A | A | 個体数は以前として平行しているが、個体数調整等一定に効果は出ている。 |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | |
|---------------------------------------|------------|-----------|
| 施策 商業の振興 41・42 工業の振興 | 主管課 | 産業建設課 振興係 |
|---------------------------------------|------------|-----------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）
 村内の中小企業の経営安定のため、各種の制度資金を充実させる。
 村内の買い物弱者のためのサービスを充実させる。
 村内の商工業の振興のため商工会と連携し、若手経営者の育成を含め、リニア新時代の将来を見据えた地域産業の発展を図る。

施策の現状
 若手経営資金・小口事業運転資金・不況対策資金・運転資金の利子・保証料の補給実施
 買い物弱者への待合所整備
 不況対策のため、村内職人への仕事創出事業実施
 村内への企業誘致活動の実施

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|----------------------|----|------|------|-----|-------|
| 村内企業売上額(製造品出荷額)都市勢要覧 | 億円 | 109 | 98 | 前年増 | 20と21 |
| 撤退・廃業企業数 | 社 | 1 | 0 | 0 | |
| | | | | | |
| | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|--|------------------------|
| 施策の課題・問題点 近年の経済情勢により、将来の見込みが不透明な中で、積極的な企業が居ない。 撤退・廃業企業を発生させないよう、行政からの支援が必要である。 | 今後の方向性 B |
| 今後の方針、対策、進め方 現企業の経営維持・育成のため、積極的な支援を行う。 リニアルート決定に伴う付加価値を利用し、企業誘致を積極的に行う。 買い物弱者のために、村内商店と協力し対策を検討する。 | |

【今後の方向性の判定基準】 A…向上 B…維持 C…減少

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 | |
|----------------------------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----------------|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | 総合評価 |
| 商工業振興事業 6500千円 | A | B | B | A | B | B | B | B | B | B | 現状の経済状況から |
| 販路開拓支援事業 2577千円 | A | B | B | A | B | B | C | B | B | B | 現状の経済状況から |
| プレミアム商品券事業 3147千円 | A | B | B | A | A | B | B | B | B | B | もう少し特異性が必要と思う |
| 雇用奨励金事業 7500千円 | A | A | A | A | C | A | A | A | A | A | 地域の雇用促進に役だっている |
| 県制度資金補給金事業 3784千円 | A | A | A | A | B | A | A | B | B | B | 現状の経済状況から |
| 村制度資金補給事業 2280千円 | A | A | A | A | B | A | A | B | B | B | 現状の経済状況から |
| 村内新参入企業への 固定資産税減免事業 8042千円 | A | B | A | A | B | B | A | A | A | A | 企業の誘致・育成に貢献している |

【総合評価・理事者評価の判定基準】 A…向上 B…維持 C…減少

| | |
|------------------------------------|----------------------------|
| 施策 観光の振興 43・44 都市との交流の振興 | 主管課 産業建設課(NPO法人だいち) |
|------------------------------------|----------------------------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）

当村には、豊かな自然と農用地、豊富で美味しい農産物の基盤がある。これらを活用した、観光農業・体験型観光など五感を活かした観光に取り組み、地域経済の活性・潤いを目指すとともに、国民全体が「心の豊かさ」「癒し」「くつろぎ」を求めている中、当村の自然・農産物・人情等をいかした都市圏の人々との交流型産業を根付かせ、住民一人ひとりがこの地域に愛着を持ち、地域ぐるみ、村ぐるみで都市と交流し、地域・経済の活性と真の潤いあるある社会を築く。

施策の現状

一般に言う観光資源を持たない豊丘村でのアピールポイントは、住民が当たり前と感じている自然・農産物・人情等である。これを資源に、都市との交流を含めた観光を勧めている。「松茸観光」「花」など既存の観光の他、農産物の収穫体験を中心とした観光を勧め、近年来村者が増加傾向にある。新規観光客の開拓を進めるとともに、飽きられない企画、継続性・発展性のある企画(商品)を提供し続ける事ができるような事業運営を勧める。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|---|----|--------|--------|---------|----|
| 目標値:10万人観光を目指す | 人 | 37,800 | 43,100 | 100,000 | |
| 交流人口の拡大による、社会の活力・地域経済の潤い、産業構造の構築、交流、心のふれあいから生まれる生きがいの追求実現 | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

施策の課題・問題点

収穫体験を核とした観光農業が順調に確立している。入込み客が増加しているが、近年では高速道路土日1,000円による他観光地への人口流出、新型インフルエンザ流行、景気の動向などの影響もあった。今後も、都市住民のニーズである直接体験したり、感じることを楽しむ方向を重視して、観光・体験農園の整備支援を進めたい。また、観光産業に携わる人材育成が急がれる。また、景気の動向など社会情勢の変化を予測し、変動の激しい観光事業を安定的に営む方法を構築しなければならない。

今後の方向性

今後の方針、対策、進め方

「松茸観光」「花」「キャンプ場」など既存の観光客の減少が無いよう後押しするとともに、農産物の収穫体験を中心とした観光を勧め、さらなる来村者の増加をはかる。新規観光客の開拓を進めるとともに、飽きられない企画、継続性・発展性のある企画(商品)を提供し続ける事ができるよう勧める。また、観光に関わる人の数、商品の数の増加をはかる事が急務である。地域資源(自然・農産物・人情等)を活用した交流は活発になっているが、地域ぐるみ・村ぐるみというレベルまではもう少し時間がかかると思われる。今後、もぎ取り体験を中心とした観光農業や都市部の特定した地域との交流など、施策の更なる充実・拡大が必要。

A

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

事務事業評価

| 事業名 | 担当課 評価項目 | | | | | | | | | 総合評価 | 判断理由 |
|--|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|---|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | |
| 既存観光推進 松茸観光・しゃくやく・アイリス・桜等 千円 | A | B | B | B | B | B | B | B | B | B | 既存観光は、地区、個人等が営業しているものであるが、集客等の増減は安定的ではない。営業者の体制、受入の体制含めて維持した。 |
| 野田平キャンプ場運営 千円 | A | B | B | C | B | B | B | B | B | B | 既存施設運営のこの事業は、ある程度安定した集客がある。施設に対する利用者要望をどれだけ取り入れるかが今後の課題である。維持とした。 |
| オーナー制度 りんご・ぶどう・しゃが芋・さつま芋・かぼちゃ 千円 | A | B | B | B | B | B | A | A | A | A | 長年続くりんごオーナーについては、契約者減少が下げ止まりつつある。他のオーナーについては増加傾向である。 |
| 収穫等観光(団体(観光バス)) いちご・桃・野菜 千円 | A | B | B | B | B | B | A | A | A | A | 観光バスツアーは、収穫体験・お土産付きが多くなってきている。現在は、そのニーズに添えるサービス提供がある。 |
| 収穫観光(個人) りんご・桃・梅・竹の子・野菜 千円 | A | B | B | B | B | B | A | A | A | A | 観光バス同様、個人ニーズも収穫体験希望が多くなってきている。現在は、それに添えるサービス提供項目がある。 |
| 振農ボランティア受入 千円 | A | B | B | B | B | B | B | B | B | B | ボランティア参加者より、受入農家の減少がある。現状維持している状態。 |
| 富士市吉原三中受入 千円 | A | B | B | B | B | B | B | B | B | B | 学校側要望に応える形での事業実施である。今後受入農家の新規開拓が課題である。現状維持 |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|-----------------|----------------|------------|-----------|
| 施策 45 | 行財政の効率化 | 主管課 | 総務課 企画財政係 |
|-----------------|----------------|------------|-----------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）

複雑多様化する行政課題への対応や地方分権の推進などにより行政需要が増加している反面、財源配分の見直しによる国庫補助金の削減や、一括交付金化の流れにより歳入の確保が不透明な状況である。こうした中で行政サービスを将来にわたって安定的に提供していくために、計画的な財政運営に努めるとともに、自主財源の確保、事務事業の見直しによる効果的な財源配分など運営の効率化に努め、財政基盤の強化を図っていく。

施策の現状

歳入における地方交付税の占める割合は依然として高く、全体の40%前後を占めている。経常収支比率は70%前後を維持しており、実質公債費比率は11.2%から9.5%へ改善されている。また、まちづくり交付金事業をはじめ、国・県の補助制度を有効に活用し、自主財源の効率的運用を図っている。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|---------|----|------|------|--------|----|
| 経常収支比率 | % | 74.0 | 69.4 | 県内86.6 | |
| 実質公債費比率 | % | 11.2 | 9.5 | 県内12.8 | |
| 村税徴収率 | % | 99.3 | 99.1 | 県内93.4 | |
| | | | | | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

施策の課題・問題点

国・地方を巡り膨大な債務や、地方分権による財源配分の見直しの中で交付税をはじめ国・県支出金等の減少が懸念されるため、自主財源の確保など安定的な歳入構造の確立が課題。

今後の方向性

A

今後の方針、対策、進め方

国・県の補助交付金制度の有効活用により財源の確保を図るとともに、地方交付税の安定的な確保に努める。行政改革実施計画の着実な推進や、行政評価による施策の評価を行い、結果を予算編成に反映させ住民サービスを低下させることなく経常経費の抑制に努める。

【今後の方向性の判定基準】 A…向上 B…維持 C…減少

事務事業評価

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 | |
|-------------------------------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|--|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | 総合評価 |
| 事業費(人件費は除く) | | | | | | | | | | | |
| 行政改革実施計画策定 47千円 | A | A | A | A | A | A | A | B | B | B | 実施計画を毎年見直し一層の行政改革を推進する。 |
| 行政評価の実施 269千円 | A | A | B | A | A | A | A | B | B | B | 行政評価結果について予算編成等に的確に反映させる。 |
| 公会計制度の導入 (公有財産の電子データ化等) 105千円 | A | B | A | A | A | A | B | B | A | B | 公有財産管理の電子データ化を含めた公会計制度の導入により、行政改革の成果を上げる必要がある。 |

【総合評価・理事者評価の判定基準】 A…向上 B…維持 C…減少

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

| | | | |
|----------|-----------------|-----|-------|
| 施策 48 | 村税の徴収率向上 | 主管課 | 税務会計課 |
|----------|-----------------|-----|-------|

施策の目的（目指すべき理想の姿）

納税者の利便性及び事務の効率化を図る目的で、口座振替への完全移行が望ましい。近年では、コンビニ収納やマルチペイメントを取り入れている自治体もあるが、これらはコストが高く事業費を増加させる要因となるため、低コストで収納率向上を図る方策として口座振替が最良と考え、今後も口座振替移行の推進に努める。また、税の公平性・平等性の確保を念頭に、夜間収納等収納のPRに努めると共に、積極的に滞納整理に取り組み収納率向上に努める。

施策の現状

納税者の利便性及び事務の効率化を図る目的で、口座振替への移行を推進している。また新たな滞納を増加させないよう、滞納額が膨らまないうちの早期収納に努めると共に、各月の納期限にあわせ夜間収納窓口を開設し徴収率向上に努めている。

| 成果指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 目標値 | 備考 |
|--------------------------|----|------|------|-------|----|
| 集合税 口座振替率(口座振替者数/納税義務者数) | % | 95.0 | 94.6 | 100.0 | |
| 村税 収納率(現年分) | % | 99.3 | 99.1 | 100.0 | |
| 村税 収納率(滞納繰越分) | % | 51.9 | 56.6 | 60.0 | |

※成果指標の設定が困難な場合、セルを結合して文章で説明を記載すること。

| | |
|---|---------------|
| 施策の課題・問題点 | 今後の方向性 |
| <p>口座振替率は95%前後で推移してきているが、預金残高不足により口座振替不能件数が多くあり、再振替・督促状発送の件数を減少させていくことが課題である。また、大口の滞納または遠隔地の滞納者からの収納も課題となっている。</p> | A |
| <p>今後の方針、対策、進め方</p> <p>納税者の利便性・事務の効率化を図るため、今後も口座振替を推進し夜間収納窓口や納税意識向上のPRを行い徴収率向上に努める。また、滞納整理については、納税者にとって滞納額が膨らむ前段で早い時期に収納を促し滞納とならないよう努める。平成23年度からスタートした「長野県地方税滞納整理後援」への大口・困難案件及び遠隔地滞納者の徴収移管を滞納者の収納状況を見つつ検討する。</p> | |

[今後の方向性の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

事務事業評価

| 事業名 | 担当課評価項目 | | | | | | | | | 判断理由 | |
|-------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----------------------------------|
| | 妥当性 | 目的性 | 必要性 | 義務性 | 効率性 | 公共性 | 優先度 | 有効性 | 発展性 | | 総合評価 |
| 事業費(人件費は除く) | | | | | | | | | | | |
| 収納率向上事業 | A | A | A | A | A | A | A | B | B | A | 税の公平性・平等性の確保の観点からも収納率向上に努める必要がある。 |
| 20,654千円 | | | | | | | | | | | |
| 千円 | | | | | | | | | | | |
| 千円 | | | | | | | | | | | |
| 千円 | | | | | | | | | | | |
| 千円 | | | | | | | | | | | |
| 千円 | | | | | | | | | | | |
| 千円 | | | | | | | | | | | |

[総合評価・理事者評価の判定基準] A…向上 B…維持 C…減少

